

4 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 8 月)	今回 (平成 16 年 11 月)	
観光	おおむね横ばい	やや減少	
個人消費	やや弱含み	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年並みとなり、水産業は前年を上回っている。

生乳生産は、牛乳等向けが増加した一方、乳製品向けが減少したことから、総量では、983,917t と前年比で0.9%減とおおむね横ばいとなっている。水産業(主要 11 港主要品目)は、この時期の主力であるさんまは前年と同程度であったが、ほっけが前年を上回ったことなどから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、猛暑の影響でビール・発泡酒や清涼飲料水が伸びたことなどから、3か月連続で増加した。パルプ・紙は、印刷用紙や板紙の増加などにより6月から8月まで3か月連続で増加したものの、9月には反落している。電気機械は、8月に無線通信装置などが大きく増加したが9月は反動減となったものの、期を通じてみれば2四半期ぶりに増加に転じた。窯業・土石は、セメントなどで弱い動きが続いたことから、前期比でマイナスに転じた。金属製品は、8月に橋りょうなどにより一時的に大きく増加したが、期を通じてみればおおむね横ばいとなった。



(備考) 平成 16 年 9 月の北海道は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

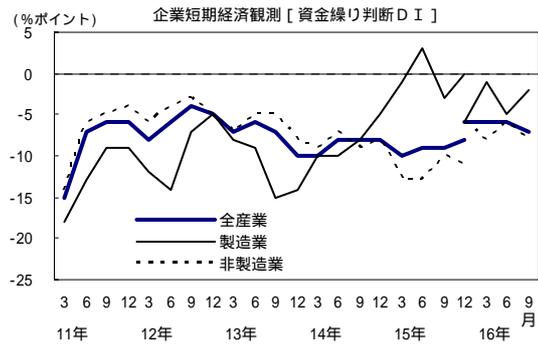
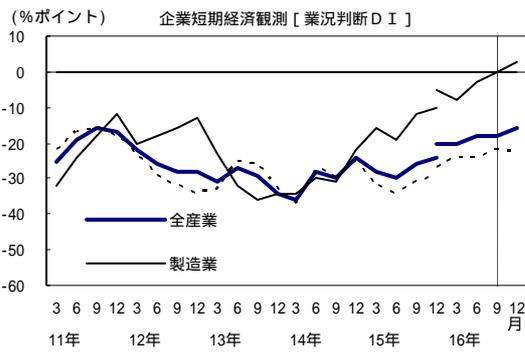
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
食料品・たばこ	26.5	0.3	2.0	0.4	4.6
パルプ・紙	12.1	2.4	2.5	3.5	3.1
電気機械	9.5	1.6	4.6	2.8	25.2
窯業・土石	9.0	11.3	3.4	0.8	1.0
金属製品	9.0	3.3	0.4	0.4	2.5
鉱工業	100.0	0.9	1.2	0.1	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7~9月期は速報値。

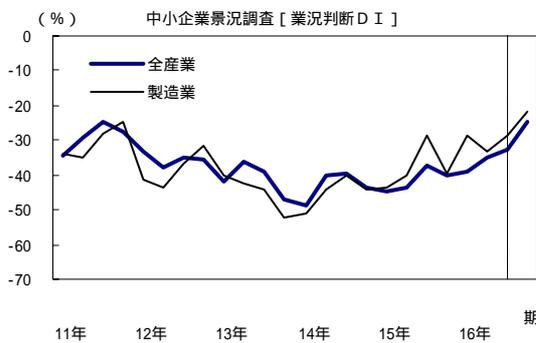
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「不動産取引は依然として低迷状態であるが、建物の建築等は多少上向き傾向にある(司法書士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

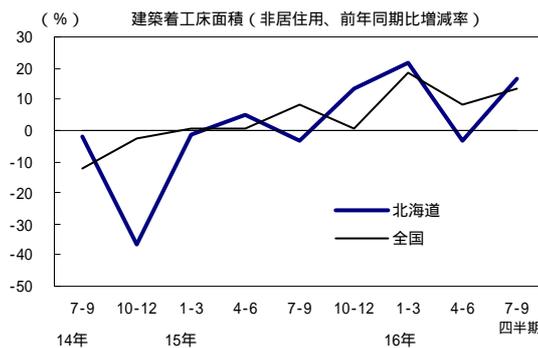
(4) 16年度の設備投資は前年度と同程度の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

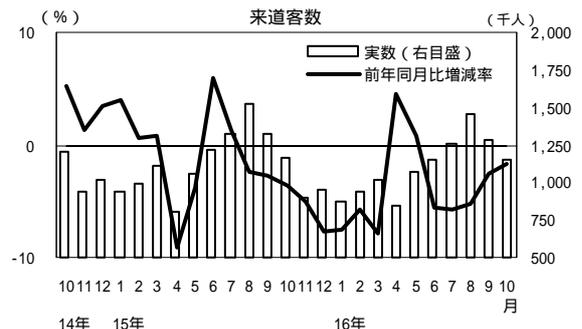
	15年度実績	16年度画
全産業	14.9	1.2 (6.7)
製造業	16.7	11.6 (17.3)
非製造業	14.0	3.4 (2.0)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はやや減少している。

来道客数を見ると、6月以来、海外や沖縄に押されたことや、北海道でも暑かったことで旅行が控えられたことから、10月まで5か月連続で前年割れとなっている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は紳士服を中心に好調だった衣料品が前年比でプラスとなり、全体では0.7%減と堅調だった。しかし、8月は衣料品がやや大きく減少し、家具なども減少したことから再びマイナス幅が拡大した。9月も衣料品での減少が続く、全体でも前年割れが続いた。なお、日本百貨店協会によると、10月の北海道地区の売上高は、前年同月比で2.6%減となっている。

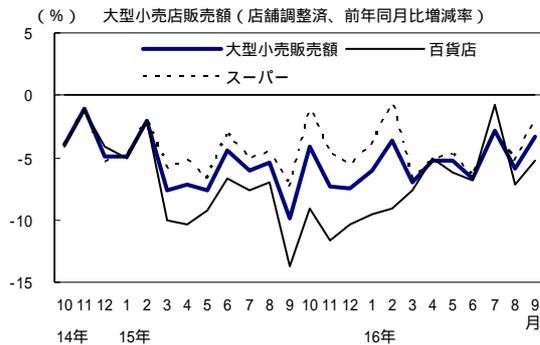
スーパーは、主力の飲食料品は9月に前年比にプラスになるなど比較的堅調だったものの、衣料品での減少が続いたことから、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

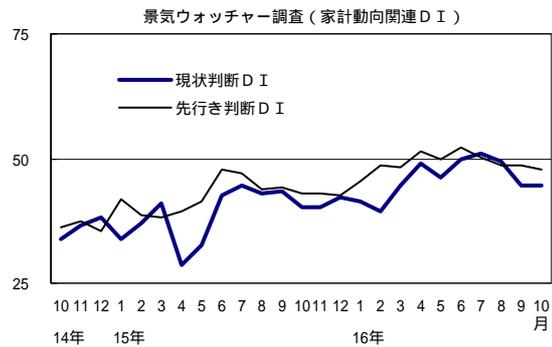
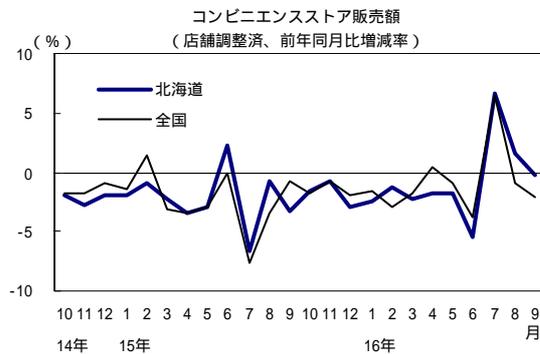
「食防寒物などの厚手素材の商品が出ているが、夏物にかなりの勢いがあった3か月前と比べても、客の購買意欲が同じ程度みられる(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	6.4	5.7	5.7	3.8
百貨店	10.3	8.6	6.0	4.2
スーパー	4.1	3.9	5.5	3.6
コンビニ	1.8	1.9	3.1	2.6
景気ウォッチャー	40.9	41.8	48.4	48.4



(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲は減少したものの、貸家、持家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると、前年度とほぼ同水準になっている。

